

1.	かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑え、ウイルスを体内から除去する働きがある。
2.	カフェインには、胃液分泌亢進作用があり、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがあるため、胃酸過多の人や胃潰瘍のある人は、服用を避ける必要がある。
3.	鎮咳去痰薬に解熱成分は配合されておらず、発熱を鎮める効果は期待できない。
4.	パパペリン塩酸塩は、自律神経系を介した作用により、眼圧を上昇させる作用を示すことが知られている。
5.	小児用の眠気防止薬はない。
6.	浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで小腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して、グリセリンやソルビトールが用いられる。
7.	低密度リポタンパク質（LDL）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポタンパク質であり、高密度リポタンパク質（HDL）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。
8.	リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない。
9.	センソは、ヒキガエル科のアジアヒキガエル等の胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬である。
10.	ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンCと反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われる。
11.	鉄分の摂取不足を生じて、初期には貯蔵鉄や血清鉄が減少するのみでヘモグロビン量自体は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。
12.	鉄製剤の服用前後30分にタンニン酸を含む飲食物を摂取すると、鉄の吸収率が上がり、副作用が生じやすくなるため、服用前後はそれらの摂取を控えることとされている。
13.	直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より上部の、直腸粘膜にできた痔核を内痔核と呼ぶ。
14.	クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からのヒスタミンの遊離を促進し、アレルギーの症状を緩和する。
15.	リドカイン塩酸塩は、局所麻酔成分である。
16.	一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、アレルギー性鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎、蓄膿症等である。
17.	点眼薬は、薬液を結膜嚢内に行き渡らせるためには、点眼後に目頭を押さえると効果的である。
18.	サルファ剤は、ウイルスや真菌の感染に対して効果がある。
19.	イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
20.	バシトラシンは、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
21.	ウンデシレン酸は、患部を酸性にすることで皮膚糸状菌の発育を抑える。
22.	ピロールニトリンは、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げ、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
23.	禁煙補助剤である咀嚼剤は、口腔粘膜からの吸収をよくするために、速く連続的に噛むこととされている。
24.	ビタミンCは腸管でのカルシウム吸収を促して、骨の形成を助ける作用がある
25.	妊娠検査薬の採尿のタイミングとしては、尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が検出されやすい「早朝尿（起床直後の尿）」が向いている。
26.	妊娠検査薬は、妊娠が成立してから4週日前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。
27.	かぜの約8割は細菌の感染が原因であるが、それ以外にウイルスの感染や、まれに冷氣や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因による場合もある。
28.	ノスカピンは、中枢神経系に作用して鎮咳作用を示す。
29.	グリチルリチン酸二カリウムは、鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的として配合されている場合がある。
30.	プロモバレリル尿素は、反復して摂取すると依存を生じることが知られており、本来の目的から逸脱した使用（乱用）がなされることがある。
31.	ブロムヘキシン塩酸塩は、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする作用を示す。
32.	一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫、蟯虫及び条虫（いわゆるサナダ虫など）である。
33.	センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕いて服用することとされている。
34.	ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
35.	組織修復成分であるアラントインは、痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、外用痔疾用薬に配合されている場合がある。
36.	レチノールパルミチン酸エステルは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要である。
37.	点眼薬の1滴の薬液の量は、結膜嚢の容積よりも少ない
38.	エタノール（消毒用エタノール）は、比較的皮膚刺激性が低く、創傷面の殺菌・消毒に用いる場合は、脱脂綿やガーゼに浸し患部に貼付して使用することとされている。

39.	口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレスや睡眠不足、唾液分泌の低下、口腔内の不衛生などが要因となって生じることが多いとされ、通常であれば1～2週間で自然寛解する。
40.	みずむし・たむしの治療は、皮膚が厚く角質化している部分には、液剤よりも軟膏が適している。
41.	アスパラギン酸ナトリウムは、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
42.	現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、中薬と呼ばれ、漢方薬と同じものを指す。
43.	酸性の消毒薬が誤って目に入った場合は、直ちに中和剤を用いて中和することとされている。
44.	ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しやすい殻で覆われているため、孵化する前であっても燻蒸処理を行うことは有効である。
45.	蚊は、水のある場所に産卵し、幼虫（ボウフラ）となって繁殖するが、ボウフラが成虫になれば保健衛生上の有害性はない。
46.	ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
47.	メチルエフェドリン塩酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
48.	ビタミンB6 が不足して生じる巨赤芽球貧血は、悪性貧血と呼ばれる。
49.	イソプロパノールのウイルスに対する不活性効果は、エタノールよりも低い。
50.	アクリノールは、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌）、真菌、結核菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。

番号	解答	解説（×のみ）
1	×	かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去する「ものではなく」、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図る「対症療法薬」である。
2	○	
3	○	
4	×	ババペリン塩酸塩は、抗コリン成分と異なり自律神経系を「介さず」、平滑筋に「直接」作用する。眼圧を上昇させる作用を示すことから緑内障の人は避ける必要がある。
5	○	
6	×	小腸ではなく、直腸
7	×	コレステロールを肝臓から末梢組織へ運ぶのが「低密度リポタンパク質（LDL）」 末梢組織のコレステロールを回収して肝臓へ戻すのが、高密度リポタンパク質（HDL）である。
8	○	
9	×	センソは、ヒキガエル科のアジアヒキガエル等の「毒腺の分泌物を集めたもの」を基原とする生薬である。
10	○	
11	○	
12	×	鉄製剤の服用前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が「悪くなることがある」
13	○	
14	×	クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からのヒスタミンの遊離を「抑える」作用を示し、アレルギー症状を緩和する。
15	○	
16	×	蓄膿症などの慢性のものは対象となっていない。
17	○	
18	×	サルファ剤は、「細菌だけ」に有効。ウイルスや真菌の感染に対する効果は「ない」。
19	○	
20	○	
21	○	
22	×	記述は、「オキシコナゾール硝酸塩、ネチコナゾール塩酸塩、ビホナゾール等のイミダゾール系抗真菌成分」の内容である。ピロールニトリンは、「菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える」。
23	×	咀嚼剤は、菓子のガムのように噛むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれてしまい、口腔粘膜からの吸収が十分なされず、また、吐きけや腹痛等の副作用が現れやすくなるため、「ゆっくりと断続的」に噛むこととされている。
24	×	ビタミンCではなく、ビタミンD
25	○	
26	○	
27	×	かぜの約8割は「ウイルス」の感染が原因である。
28	○	
29	○	
30	○	
31	×	記述は、「カルボシステイン」の内容である。ブロムヘキシン塩酸塩は、「分泌促進作用・溶解低分子化作用・線毛運動促進作用を示す」。
32	×	一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、「回虫と蟯虫」だけである。
33	×	センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、「噛まずに」服用することとされている。
34	○	
35	○	
36	○	レチノール＝ビタミンA
37	×	1滴の薬液の量は約50 μ Lであるのに対して、結膜嚢の容積は30 μ L程度とされている。
38	×	エタノール（消毒用エタノール）は、皮膚刺激性が「強い」。患部表面を軽く清拭するにとどめ、脱脂綿やガーゼに浸して患部に貼付することは避ける。
39	○	

40	×	皮膚が厚く角質化している部分には、「液剤」が適す。「じゅくじゅくと湿潤している部分は軟膏が適す。
41	○	
42	×	現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、中薬と呼ばれ、「漢方薬とは明らかに別物である」。
43	×	酸性の消毒薬が誤って目に入った場合は、早期に十分な水洗がされることが重要。酸をアルカリで中和するといった処置は、熱を発生して刺激をかえって強め、状態が悪化するおそれがあるため適切ではない。
44	×	燻蒸処理を行う場合、ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透「しない殻で覆われているため、殺虫効果を示さない」。そのため3週間位後に、もう一度燻蒸処理を行い、孵化した幼虫を駆除する必要がある。
45	○	
46	○	
47	×	記述は、抗ヒスタミン成分の内容である。メチルエフェドリン塩酸塩はアドレナリン作動成分。
48	×	ビタミン B6 ではなく、ビタミン B12
49	○	
50	×	アクリノールは、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌）に対する殺菌消毒作用を示すが、「真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない」。